

出雲市環境総合計画（案）に対する意見（パブリックコメント）と対応

- | | |
|------------|----------------------------------|
| 1. 意見募集期間 | 令和4年(2022)12月23日～令和5年(2023)1月23日 |
| 2. 意見の提出者数 | 1人 |
| 3. 意見数 | 6件 |

No.	ページ	項目	意見	対応
1		CO ₂ 排出量削減目標	2030年度46%削減(2013年度比)、2040年度65%削減、2050年度100%削減の目標が大前提となっており、それに沿って各部門別に将来推計が出されているだけである。2019年度から2030年度の間、2030年度から2040年度、2040年度から2050年度の間で削減量が大きすぎるが、どう推計したのかが全く分からない。無理がある。	CO ₂ 削減量については、数値目標に沿って計画的に重点取組を進めることで推計しています。
2	P. 41 P. 42 P. 43	CO ₂ 排出削減に関する重点取組 再生可能エネルギーの導入目標	<p>①太陽光発電について、2030年度から2040年度、そして2040年度から2050年度の間で各81000kw増加している。単なる数字合わせである。</p> <p>②風力発電について①と同様である。</p> <p>③バイオマス発電について①と同様である。なお、2022年度から2030年度の間が約2.5倍となっており、どのようにして増加させるのか、極めて疑問である。</p> <p>④中小水力発電について、2030年度から2040年度の間が300kwの増加、2040年度から2050年度の間が1800kw増加している。どのような対策によって、このような増加を見込むのか。単なる期待、希望的観測にすぎない。</p>	再生可能エネルギーの導入目標については、「導入目標の設定について」の項目で各種別の考え方を示しています。

No.	ページ	項目	意見	対応
3	P. 44	次世代自動車の導入	新車販売台数に占める次世代自動車の販売台数割合が2030年度に70%、2040年度に100%となっているが、楽観的、希望的すぎる。充電スタンドや水素ステーション等のインフラ整備を促進するということだが無理がある。水素ステーションは全く整備される動きがなく、見込みが無いのが現状である。	国の目標に準じて設定しています。ご意見は計画を進めていく中で、参考とさせていただきます。
4	P. 50	Jクレジット制度活用の拡充	事業者にとって、Jクレジット制度を活用するインセンティブは何なのか。拡充できるとは考えにくい。	Jクレジットは、事業者におけるカーボンオフセットなどのCO ₂ 削減対策として取り組まれています。
5	P. 64	(4)行動指針	事業者に過剰包装や使い捨て容器の使用や自粛するように、とあるが、過去に市がそのような働きかけを強くされたことがあるのか、今後されるのか。トレー、プラスチック容器の使用を止めるような規制をしないと無理である。	レジ袋削減など事業者と連携した取組を進めています。計画を進めていく中で、取組の拡充を検討していきます。
6			根本的な問題は、現在ある技術を使ってCO ₂ 排出量を、2030年度46%削減、2050年度100%削減は無理である。例えば、CO ₂ の固定化は技術的に現時点では無理であり、いつ可能になるのかも見通せない。この計画では2030年度、2050年度のCO ₂ 排出量削減目標は達成できないと言わざるをえない。計画の抜本的な見直しが必要と考える。	ご意見は参考とさせていただきます。

※意見は長文のため、一部抜粋、要約しているものがあります。